

ディヤコニア



ベテスダの日開会礼拝説教

洗礼を受ける主イエス

マタイによる福音書 3章7〜17節

イエスさまが伝道を始められる少し前、バプテスマのヨハネと呼ばれた預言者がユダヤに現れました。(バプテスマ)は洗礼という意味で、ヨハネは悔い改めの説教を語り、ヨルダン川で人々に洗礼を授け始めました。ヨハネは言いました。

「イスラエルの人々よ、『我々の先祖はアブラハムだなどと思ってもみるな。汚れた異邦人』外国人とは違う神に選ばれた特別の民なのだ」と威張っているが、神さまは、

その辺に転がっている石ころからでも、神の民を造り出すことがおできになる。うぬぼれては



いけない。斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな切り倒されて火に投げ込まれる。」

ヨハネは評判の預言者と見られて、人々が続々とやって来てヨハネの説教に感動して、洗礼を受けたのです。

当時のユダヤ教では、洗礼は異邦人がユダヤ教に改宗する時に受けた儀式でした。ユダヤ人は洗礼を受けないのです。

ユダヤ人は生まれながらの神の民で、普通に十戒を守っておれば、ということは、普通に悪いことさえしなければ、救われると思ひ込んでいたのです。

ところが、バプテスマのヨハネは、ユダヤ人も異邦人も皆、神の前で罪人である、悔い改めて洗礼を受けなければ、救われぬ、と言ったのです。これは、ユダヤ人にとっては大ショック、聖書の歴史の中で画期的な出来事となりました。

このヨハネのところへイエス様がやって来て、「わたしにも洗礼を授けてほしい」と言われました。ヨハネはびっくりしました。洗礼は悔い改めのしるしです

から、罪人が洗礼を受けるのです。ところが、イエス様は神様から遣わされた、罪のないお方だということを、ヨハネは知っていました。ですから、「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたがわたしのところに来られたのですか」と言いました。

すると、イエス様は、「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、われわれにふさわしいことです」と言われました。「われわれ」というのはイエス様とヨハネのことです。ヨハネが洗礼を授ける、イエス様が洗礼を受ける、それは、正しいことであり、2人にふさわしい。いわば共同作業だということです。これはどういうことでしょう。

それは、洗礼を受けることにおいて、イエス様は人々の模範となり、先頭に立つということなのです。それをヨハネは手伝うということです。イエス様ご自身は洗礼を受ける必要はないのです。しかし、すべての人は悔い改めて洗礼を受けて救われる必要があります。それならば、イエスさまも罪ある人々と同じになって洗

礼を受けるといのです。

それが正しいことである、と神さまは見られました。ですから、7節にこう書かれています。

「そのとき、『これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者』という声が天から聞こえた。」これは神様の声です。

イエス様は神様の心に適う者ですから、すべてのことにおいて、私たちの模範となられる方です。やがて、イエス様に従う人たちはみな洗礼を受けて、イエス様に倣う生き方をするようになりました。それが新しい神の民、教会となっていました。

ところが、イエスご自身はだれにも洗礼を授けませんでした。なぜでしょうか。ここで、「今は止めないでほしい」と言われたイエス様の言葉に注目します。「今は」主は洗礼を受ける、しかし、しばらくは主の下では洗礼は行われたい、ということ。それは、ヨハネの洗礼は「水」による洗礼で、イエスの洗礼は「聖霊と火」による洗礼である、とヨハネが

言っているように、イエス様の洗礼は、

ヨハネの洗礼とは違うのです。聖霊は神の命です。火は、罪を魂の底まで清める力です。その違いがはっきりとするのは、ペンテコステなのですが、その時まで洗礼は止められるのです。

しかし、同時にヨハネの洗礼とイエスの名による洗礼とは共通しています。それは水による、悔い改めの洗礼であるということ。ここにおられる皆さんは、ベテスタ奉仕女母の家という社会福祉法人のいろいろな施設で働いておられる働き人と、その人たちをサポートをする人たちであろうと思います。皆さんは、洗礼を受けた信仰者がこの母の家をつくりあげてきたということは、よくご存知であろうと思います。創立者の深津文雄牧師を初め、ドイツから奉仕のために来られたシユベスターたち、日本で献身したシユベスターたち、その他の指導的な人たちは、イエス様に従う信仰なしには、最も深く傷ついた女性たちのために、仕え、働くこと

はできないことを、証したと思います。

イエス様は私たちのために洗礼を受けてくださいました。悔い改めて、身を低くして水の中に沈められるという姿勢を私たちのために示されました。その生涯の終わりには、十字架にかかって、ご自身の命を私たちに与えてくださいました。

シユヴェスターたちは皆そのイエス様の愛を分に感じて証しされたと思います。私たちはシユベスターたちの後を継いで働いています。神様は私たちを時代に合わせシユヴェスターとはすこし違う形で働かせてくださっていると思います。しかし、イエス様に倣って働くことを目指している点においてはシユヴェスターも私たちも同じです。

イエス様が最初に洗礼を受けられたように、私たちも洗礼を受けることにおいて主に倣うことができるとき、その働きは一層愛と力に満ちたものとなると思います。

(ベテスタ奉仕女母の家事事

牧師 伊藤 瑞男)

施設だより

いずみ寮の日々より

いずみ寮の職員となり早6年目となります。寮では日々様々なことが起き、多くの年間行事が計画され、駆け抜けるように毎日が過ぎていきます。今日は、この夏に愛犬うめちゃんを巡って起きた出来事と、日々利用者の皆さんが励まれる作品作りをご紹介します。

うめちゃんは東日本大震災の被災犬で、縁あって福島県浪江市からやってきました。利用者さんだけでなく、うめちゃんを知る外部の方からも大変かわいがられ癒しの存在にもなっています。番犬なので知らない人の来寮に吠えることもありません。しかし、8月のある日を境に、うめちゃんが吠える度に近隣のある方から執拗ともいえる苦情が入るようになります。「うるさい」「しつけをしろ」という内容で、苦情は寮だけではなく外部機関にも届きました。訴え先は理事長のい

る茂呂塾保育園や寮近隣の交番、保健所、都の福祉保健局、そして厚生労働省にまで及び、事態は深刻なものへと発展しました。訴えを受けた機関からは都度報告の連絡をいただき、一時は毎日のように交番の警察官が来寮してうめちゃんの状況を報告する程でした。

あまりの苦情の多さと事態の深刻さに、寮としてもうめちゃんを建物内に移すという対応を取らざるを得なくなり、うめちゃんは小屋を離れて職員玄関内で生活を始めることになりました。すると、うめちゃんもただならぬ気配を感じるよう次第に不安定になり、以前より一層吠えるようになります。

職員も敏感になり、来客があればすぐに玄関に駆けつけ、うめちゃん



んが吠えればエサがほしい？ 散歩がしたい？ おしっこかな？ と様子伺いの

連続です。

とうとう夜中にも突然吠え出すようになり「今夜は静かにね」と祈るようになり宿直する日々でした。ある日には、夜中の1時に吠え、2時に吠え、4時に吠え；室内にいても声は響くため、その度に慌ててうめちゃんのもとへ向かいます。

するとそこには目を輝かせて元気に尻尾を振るうめちゃんがあります。撫でるだけでは静かにならず、暗い中庭を散歩させたりおしっこをさせたりと、どうしたら落ち着いてくれるのか夜中に試行錯誤です。離れると吠えてしまうなら、うめちゃんの隣に自分も布団を持ってきてしまおうか？ とよぎったこともあります。しかしどんなに眠くても、あのまん丸な目で見つめられるとかわいくて仕方がなく、うめちゃんマジックでなんとか宿直を乗り切っています。

そんなうめちゃんは、職員玄関生活に少しずつ慣れてくれたのか、最近では吠えることが少なくなりつつあります。いつかまた、自分の小屋で過ごせる日が来ることを願うばかりです。

そして、いずみ寮では、今年も地域ふれあいバザーの季節がやってきます。毎年11月の第2土曜日に行われる恒例行事で、利用者の皆さんが日頃作られたたくさん作品も並びます。

私は現在、利用者の方が日中活動を行う作業場での就労支援担当をしています。寮の作業場は「COCCOアートいずみ」という名称です。以前はそのまま「作業場」と呼ばれていましたが、ここは工場ではなく豊かな作品を生み出す場…との思いから利用者さんに名称を募集し「ここ(COCCO)でアートを生み出す」という意味で名付けられました。

作品はひとつひとつ手作りのため、その時々在籍する利用者の方によっても変わっていきます。「COCCOアートいずみ」という場所に、ひとり、またひとりと新しい方が入れられ、その度に新しい作品が生まれます。いつも期間限定作品です。COCCOアートいずみには、たくさん個性や才能、努力が詰まっています。そして、利用者の皆さんに制作のアドバイスや意欲の湧く言葉かけを行ってくだ

さるのが、長年(中には30年以上も)通い続けてくださっているボランティアの皆さんです。いつも近くで作品作りを支えてくださり、本当に感謝に堪えません。

いずみ寮の代表的な作品といえは裂き織りです。洋服や着物をほどこき、生地を紐状に細長く切ったものを織り機で織り上げていきます。織った生地をボランティアさんがひとつひとつ丁寧に、ペンケースやポーチ、バックなどに仕立ててくださり完成します。生地の素材や柄によつて仕上がる色合いや雰囲気は様々で、なんともいえない暖かで柔らかな作品となります。

面白いのが織り手によつても全く異なる風合いの作品が出来る上かるといふこととです。どの作品にも裂き織りの魅力と利用者さんの個性が感じられ、文字通り世界にひとつだけの作品が誕生します。



作品は裂き織りだけではありません。最近では、毛糸を使った色とりどりのコ



サージュがたくさん出来上がり、バザーで並ぶ日を心待ちにしています。編みぐるみが得意な利用者さんは長野県松本市にあるギャラリーから

注文が入り、たくさんのネコやイヌの編みぐるみを気合を入れて制作中です。刺し子が得意な方は、色鮮やかな何色もの糸を使い分けてきれいなテーブルクロスを仕上げました。キラキラ光るビーズを使いアクセサリーを作られる方もいます。利用者の皆さんは本当に感性豊かで、制作過程を眺めているとワクワクし、完成が楽しみになります。

いよいよ、バザー目前です。今年も多くのお客さまに作品を手にとっていただき魅力を感じていただけたら嬉しいですね。

(いずみ寮副主任支援員 高橋美帆)

2019年

ベテスタの日のついで

今年のベテスタの日は9月21日土曜日の保育が行われる日に、茂呂塾保育園にて行われました。

9月9日の台風15号は千葉県に大きな災害をもたらし、かいた婦人の村でも、建物などに大きな被害がありました。そのような中でベテスタの日を迎えることが出来るのだろうかと心配していました。かいた婦人の村から、天羽道子姉、塩川成子姉、天良さゑ子姉が来て下さり、奉仕女3名、祈りの友9名、法人関係者など52名の集いを無事に行うことが出来ました。神戸の母の家ベテルからもお二人来て下さり感謝です。

第1部は、伊藤瑞男牧師による「洗礼を受ける主イエス」という説教での礼拝。次に、かいた婦人の村名誉村長天羽道子姉より「底点志向者イエスに倣う」とい

う題での講演。法人の始まり、茂呂塾やいずみ寮、かいた婦人の村、かいた作業所エマオが出来た流れを聞きました。



第2部では

「もろじゆくごはん」を皆様に召しあげて頂きながら、交わりの時を持ちました。毎回、参加された方が「もろじゆくごはん」を喜んで下さり、嬉しく思います。前回のベテスタの日より、お弁当のスタイルを取らせていただいています。が、今回も皆様に喜んでいただけるように、メニューを選び、準備を進めました。お品書きや包装も、消しゴムスタンプの得意な職員の指導を受けながら「消しゴムスタンプ部」を発足し、こだわってました。

手作りの食事や名札など、いつも褒めていただきますが、かいたやいずみ寮に

行かせていただいても、同じように手作りの温かみを感じます。これは法人としてずっと受け継がれていることなのだろうと思います。簡単に色々なものが手に入る時代ですが、幼い子ども達、支援が必要な方々と共に暮らす私たちにとって、丁寧な暮らしは、とても大切なことだと思います。それを皆様に喜んでいただくことは、大変嬉しく思いました。

お食事をいただきながら8ミリフィルムの上映会を行いました。茂呂塾に残っていた、今から52年前の貴重な映像です。その後、シユヴェスター方から近況と、各施設からの報告がありました。その中で、台風の被害が気になるかいたの報告を塩川姉がして下さいました。

かいたでは建て替えを計画している中で今回の被害であり、一番弱い方々が不自由な生活を余儀なくされている現状や、修繕費が必要であることを報告されました。エマオでも屋根が破損し、バザーを目前に商品となるものが濡れてしまい100万円位の損失が出たそうです。

しかし、大変な被害にあわれているにもかかわらず「私たちは、いずみ寮や茂呂塾保育園の職員の皆さんに、すぐに助けに来ていただき、支えられています」「大変な被害にあわれた方の中には、このようないない方が、大勢いらっしゃいます」とお話しされたことが、とても心に残りました。私たちに出来ることを考えていきたいと思えます。

ベテスダの日は、各シユヴェスター方のお誕生日に祈りの友が集まってお祝いをしていただくが始まりだったと聞いています。それを1度にまとめて9月の秋分の日に皆で集まるようになりました。そして数年前から会の準備、ご案内や出欠の取りまとめなどをすべてを各施設で担うようになりました。今回、ご案内状を送らせていただいた方は約100名です。残念ながら出席された方はその3分の1ではありますが、この法人を支えて下さっている理事や監事の方々は勿論、祈りの友のお名前を知る機会となりました。祈りの友の方々は北海道、広島、神戸な

ど遠方に住まわれている方もいらっしゃいます。ベテスダのことを思い、祈っていて下さる方が全国におられることを知り、ベテスダで働く者として勇気づけられたのと同時に責任も感じました。

シユヴェスター方がご高齢になられ、ベテスダの日への参加が難しくなつておられ、祈りの友の方々も同様で、ご高齢で欠席される方が多く、ベテスダの日の在り様が少し変わってきています。

しかし、ここで働く私たちにとつては、こうしてお話を伺い、法人の創設者・深津先生をはじめ、シユヴェスター方の働きやご苦労を知ることができ、後に続く者として、貴重な機会となり、各施設のことを知り、同じ法人で働く方々との交わりの時として、とても良い機会となっています。

会の終わりに天羽姉がディアコニアの精神は制服を着ているか着ていないかではなく、クリスマスチャンであるかクリスマスチャンでないかではなく、どんな人でも出来ることだと話されていました。ベテ

スダに連なる私たちひとりひとりが、このことをしっかり受け止めて、次に繋がるように、自分たちの出来ることをしていきたいと思えます。そして、90歳を過ぎた天羽姉が、台風の被害の中、豪雨で濡れてめくってしまった床に、毎日ガムテープ貼りをされていたと報告があるのと、「わたしはまだ若いですから・・・」と言われ、私ももつと頑張らなくてはと、勇気づけられました。



どんな時でも神様は私たちといて下さり、道を備えていて下さっていることを

信じ歩んでいきたいと思えます。そして、シユヴェスター方や法人を支えて下さっている方々のご健康と平安を願いお祈りいたします。

(茂呂塾保育園・保育士 今井直子)

かいた婦人の村

台風15号被災状況報告

9月9日未明、台風15号は強い勢力を保ったまま千葉県上空に到達しました。

今まで大きな台風でも大した被害もなくのほほんと暮らしてきた房州人の度肝を抜く未曾有の大被害を引き起こすとは、誰も考えられませんでした。

私の家は河川の氾濫による水害を引き起こす地区ではないので3・11の教訓通り、車のガソリンを満タンにし、懐中電灯の電池を確認、携帯電話も満充電、予備バッテリーも充電して就寝しようと思いましたが、余りの風雨に不安になり、テレビやインターネットで情報収集していたところ、館山市でもガラス窓が割れ、風雨が吹き込み悲惨な状況になっていることが確認できました。

翌朝の出勤時に飛散物や落下物に注意してかいた婦人の村に到着すると、何か尋常ではない雰囲気でした。

「屋根が被災して雨漏りしています」「停電しています」等の連絡を受けながら、被害状況を山の上のちばな亭から確認すべく軽トラで出掛けると、農園から上は倒木で道を塞がれて進めません。引き返す途中に会堂を確認すると、これもまた会堂前の桜の木が2本倒れており、会堂に近づけませんでした。



会堂前の桜2本倒れる

また、農園・牛舎の南側の壁に牛舎下の堆肥用の鉄骨がめくれ上がりめり込んでいました。こんなことは尋常ではない物凄いい力が作用しないと起きません。

牛乳処理室の屋根も剥がれて、ガラスサッシも数枚割れていました。中心気圧960hPa・最大風速40m/sの惨劇でした。

農園から降りる道の途中でトラックを止めて見てみると、ベゴニア寮の天窗が

崩壊していました。両隣の2寮も屋根材が剥がれ、材木が見えていました。



牛舎の壁に鉄骨がめりこむ

そこから、食堂の屋根の屋根材が3か所剥がれているが見えました。またデージー寮も屋根材が剥がれ南側の軒が崩壊し、管理棟の屋根も一部屋根材が剥がれ、3階の鉄製バルコニーも支柱が外れ折れ曲がっており、波板も破壊しているのが見えました。ここまでほぼ全部の建物が、多かれ少なかれ被災しています。



食堂入り口・空が見える

残りの建物も確認すべく下りていくと、食堂は屋根だけではなく南向きのバルコ

二の壁が中央から風で押されてくの字に曲がり、天井波板ガラスが殆ど割れて落下しています。これも尋常ではない物凄しい風の勢いだったことが伺えます。



被害の大きかったデジジー寮

デジジー寮は更に南側のサッシが一枚割れており軒のモルタルが今にも落ちてきそうな危険な状態でした。

お風呂は停電でボイラーが停止し、湯温が低下して入ることが出来ません。

洗濯班の建物は屋根材が剥がれ、サッシが一枚割れていました。たんぼぼポールは建物被害はありませんでしたが、雨どいが曲がったりなくなったり。ウッドデッキは半壊し、周りの樹木もなぎ倒され、倒木を避けてやっと通れるくらいです。また陶芸班の建物も南側の明り取り

のガラスが割れて室内に散乱していました。幸い焼成器は大丈夫でした。

製菓班の建物は構内のインターフォン線が緩み、ブラブラしており南側のバルコニーは前から半壊状態でしたが、さらにトタン屋根が剥がれ落ちていました。手芸班も屋根材が剥がれ雨漏りしていました。

かいた婦人の村の水の要・大賀用水の過器と貯水槽を確認しようとしたが、またもや倒木で進めません。



倒木で進めない

現アネモネ寮から徒歩で行こうとしたが、そこでも倒木に道を塞がれ進めません。電柱は倒れ、食堂脇の貯水槽の水位センサーは断線していました。倒木、電柱、配線と全部修理しないと、大賀用

水が使用できない壊滅的な状況でした。現在空き寮となっているフリージア寮も倒木に阻まれ確認に行くことすらできない状況でした。

築54年のかいた婦人の村は、毎年台風で何らかの建物被害は出ていましたが、今回のような大規模な損害は初めてです。どこから手を付けていいのかあたふたするばかりでしたが、そうもいつてられない。復旧作業の段取りや保険請求の為の資料作りと並行して、まず雨漏りの応急処置をしなければならぬのですが、市内全域にわたって停電しており、ブルーシートやコンパネなどの資材を購入しようにも、店舗が営業してません。

幸い市の水道水は供給されていますので、日中だけでも送水ポンプを運転する為に発電機を動かしますが、携行缶のガソリン残量は少ししかありません。翌朝やっと見つけたガソリンスタンドは長蛇の列でした。南房総全体が停電のため、どこもかしこも休業で、食事を提供する事もままならない状況です。

そんなおり、いずみ寮からは小幡さん、矢島さんがブルーシートやトラロープ、養生テープ等の資材やパンなどを持って駆けつけてくださったたり、支援者様からは、飲み物を始め、レトルト食品やアルファ米等の食料を、また停電が解消した地域からは発電機の貸し出し等、沢山の支援をいただきました。

なんとか電気だけでも使えればと思いい電源車の派遣を要請しますが、こんな大災害なのに、館山市も千葉県も対策が始まりません。13日の夕方、「館山市の電力復旧はあと2週間」との報。悲壮感が漂い始めましたが、翌14日電気が復旧。会堂の割れたステンドグラスのガラス拾いとブルーシート張りに汗を流して下さっていた茂呂塾保育園の職員の方々と拍手して喜びました。報道でも館山市布良地区や鋸南町の悲惨な状況がやっと報じられるようになってきました。

瓦礫の撤去作業や倒木処理、ブルーシート張り、養生——停電で扇風機も使えない真夏日の続く中、職員一丸となって復旧作業に当たりました。心強い

事に、教会関係やボランティア団体など、沢山のボランティアが来てくださるようになり、復旧作業が動き出しました。やっと修繕の見積もり等が始まり、復旧作業も前進しているさなか、まさかの



たんぼぼ避難所

台風19号発

生。職員に緊張が走ります。今回はたんぼぼホールに避難するしかない。食事はどうするか、寝具はどうするか、どうするか

等の緊急会議と実働開始です。栄養士は、支援して頂いた食料を前に献立を変更。発電機も用意して、食事の用意に女性職員、当直には施設長と副施設長のほか、女性職員2名。私は次の日の復旧に備えて帰宅し、情報収集に当たりました。報道通りなら最大級の台風です。人類が試されているような規模です。

翌朝テレビでは関東・東北地区の大被害が報道され、一段と被害が酷くなっておりますが、痛みます。注意して通勤路を通りますが、応急手当のブルーシートが剥がれてしまった家屋が目立ちます。

かにたでも、いくつもの屋根のブルーシートやコンパネが飛んでしまっていました。でも天気予報はまたすぐ雨。日曜日ですが主に屋根の養生復旧にとりかかります。素人ばかりの高所作業です。十分気を付けて作業開始です。また農園も屋根や割れたガラスの養生に全力を注ぎます。



作業中の理事長と小幡さん

そしてまたまた台風21号の影響で大雨警報と避難勧告が出される中、大沼理事長自ら復旧作業に名乗り出

てくださり、とても感謝しています。

(かにた婦人の村宮繕係・小川 照明)

ゆくよこ
シヴエスターから
ひとこと

元気で食事も全部食べられています。

食後は部屋で過ごすことが多くなっていますが、スポーツが好きで、大相撲が始まるとホールに出て、テレビを見て応援しています。

桜庭 歌子

元気で。ホールにいる方に声をかけて一緒に折り紙をしたり、洗濯ものをたたんだりしています。外が好きなので、今朝もスタッフと一緒に海岸まで散歩しました。いろんな花の名前を知っていると、驚かれています。

小川 都代

相浜ガーデンで暮らしている、シヴエスター歌子とシヴエスター都代の生活の様子をスタッフの方に聞きました。

*

あの耐え難いような夏の暑さはどうに過ぎ、すごしやすいこの頃、ベテスタの日も 今年は茂呂塾保育園を会場にして盛大に行われました。話題は台風15号に

よる、かにた婦人の村の被害についてでした。実際にはどんなに大変だった事でしょう。

真山 知恵子

*

親切な言葉は蜜の滴り。

魂に甘く骨を癒す。(箴言16章24節)

九十歳をすぎた毎日の生活に、このことばのように人と人が交わす間に大切に心をややすことと思います。台風15号、台風19号の超大型で次々と予想をこえた被害が続いている。ひとことで自然災害だから…と言えない。神さまの創造された地球を危険にしている愚かな人間の歩みを変えなければならぬ。細井 陽子

*

気候の変動は年々激しさを増しているような気がします。台風15号で「かにた婦人の村」も被害にありました。

続く19号では、広範囲に及ぶ大きな被害で、亡くなられた方々、行方不明の方々、被災され困難にある多くの方々に心が痛むばかりです。快復するまで時間がかかるでしょうが、これから寒さに向

かいます。一日でも早く普段の暮らしに戻れますように切に願ひ祈る者です。

植木 道子

*

9月9日未明、房州地方に最接近した台風15号。最大瞬間風速48・8メートルの南南西の猛烈な風を受けた館山市。前夜11時ごろから約5時間、管理棟二階で恐怖の夜を過ごし、朝6時に下に降りてみると、玄関ホールの大惨状。

ガラス二枚が割れ、暴風雨で飛び散ったガラスと雨水と書類、物品。更に、施設してあつたドアを打ち開けて会議室にまで暴風雨が吹き込んだ。その脅威に茫然とするばかり。

寮や食堂の屋根の一部が飛び、ガラス破損、ひどい雨漏り、倒木などなど。その上5日間の停電。いままで想像でしかなかつた台風の脅威を、真ともに経験。

しかしし何と多くの方々の方々の積極的な支援をいただいているか。いまだ破損のところは未修理ながら、日常生活は安定し、感謝。と共に、続いて襲来した19号と、その後の記録的な大雨に被災された方々に思いを馳せています。

天羽 道子

賛助金・臨時寄付金

ありがとうございますございました

(7～10月分)

貫井大輔 大沼昭彦 浅野康子 平山嘉繁 渡部茂子 今井佳代 森戸隆夫 酒井忍 斉藤恵美子 長谷川寿美子 中村由紀子 村田充子 森史子 池田貴美子 柴山操 眞山智恵子 伊藤隆史 望月栄一 花田こずえ 大宮洋子 大曾根聡子 久保木知子 日本基督教団鎌倉雪ノ下教会社会委員会 明治学院中学校 東村山高等学校 藤沢ベテル伝道所 田浦教会 エレミヤ会 日本キリスト教社会事業同盟 ベテスタ姉妹会 静岡県女性相談センター有志一同 日本基督教団牛込払方町教会・山ノ下恭二 (敬称略)

★ 寄付金に関する税金の優遇措置

— 所得税と住民税の税額控除について —

一 所得税の税額控除 私どもの法人に

対する寄付金につきましては、今まで確定申告の際に寄付金控除を申告することが

出来ましたが、本年10月1日以降の寄付金につきましては、税額控除又は寄付金控除のいずれか有利な方を選んで所得税に関する優遇措置を受けられるようになりました。

確定申告の際に、「税額控除に係る証明書」を寄付金領収書(本部発行の寄付金領収書又は各施設発行の寄付金領収書)に添付することにより、税額控除の適用を受けられます。

二 住民税の税額控除 東京都民の方は所得税の他に、都民税(個人住民税)の優遇措置を、更に練馬区民の方は特別区民税の税額控除の優遇措置が受けられます。

★ かにた婦人の村の台風被害につきましてでは、ベテスタの日での呼びかけに応じて、沢山の支援金を集めて下さり、ありがとうございます。停電中の真夏日にアイスクリームやスイカの差し入れも、嬉しかったです。また、職員が限界を超えて作業に当たり、ゆとりを失っている中で、村人の「こわかったよ」という話を、ひとりひとりゆっくり聞いて下さったことも、本当に感謝です。

★ 「日々の聖句」2020年版ができました。本部またはお近くのキリスト教書店でお求めください。また、併せて「ドイツ聖歌集」(日々の聖句の主日に載せてあります)も本部にお申し込みください。

★ 編集後記

主の大きな御名を賛美いたします。昨年来、皆様からお寄せ下さいましたご支援に心から感謝申し上げます。今後とも引き続き、皆様の日々の祈りの中でお覚え下さい。

2019年11月15日発行(年3回)

発行人 大沼昭彦

編集人 村田英彦

印刷所 (株)印刷センター

発行所

〒178-0006

東京都練馬区大泉学園町7-17-30

社会福祉法人ベテスタ奉仕女母の家

電話 03-3924-2238

<https://www.bethesda-dmh.org/>

振替口座 001990-2-1338164